



令和 8年 4月 1日
佛教大学附属こども園

「仏教保育 4月のねらい」
合掌聞法

お子さまのご入園・ご進級、おめでとうございます。

園長就任のご挨拶 ～「ナムアミダブツ」と「ナマス・テー」～

ほそだのりあき
細田典明

本年度より佛教大学附属こども園々長の職を拝命いたしました。

私はこれまでインドの古代思想を中心に研究して参りました。ブッダが出現する前後、西暦では紀元前 6 世紀から紀元 5 世紀という途方もなく長い期間になりますが、ブッダ以前のウパニシャッド聖典、初期仏教から大乘仏教、そして現代インドまで使われている「挨拶のことば」があります。それは「ナムアミダブツ」の「ナム」、インドの挨拶「ナマス・テー」の「ナマス」です。六字名号では「阿弥陀仏」に、挨拶では「テー」つまり「あなた」に、「帰依します」という意味です。「ナム」や「ナマス」は体を前に屈める、お辞儀をすることであり、相手が神であれ、仏であれ、普通の人であれ、合掌して「ナマス・テー」と言います。

浄土宗では「南無阿弥陀仏」と唱えることが最も重要な行為です。お十念のときは、この思いを込めて「ナムアミダブツ」とお唱え下さい。

これからよろしく願います。

「さくらがさいた らんらんらん さがのひろっぱ らんらんらん♪」

これは佛教大学附属こども園の園歌1番冒頭の歌詞です。「らんらんらん」という言葉を使うときは、楽しいときです。心が躍るような気持ちを表現する言葉です。

新学期、子どもたちが1日も早く新しい生活に親しみ、「らんらんらん」というような心持ちでこども園に通うようになってほしいときと保護者の方も願っておられることでしょう。

でも実際はどうでしょうか。「お母さんがいいの!」「行きたくない」「早く帰りたい」などなど…。もしかするとお子さんの発する言葉は、大人にとってはネガティブに聞こえる言葉の連続かもしれません。新学期子どもたちの口からそのような言葉が聞かれるのはごく自然なことです。慣れ親しんだ場所や安心できる場所から、わからない場所へとび出したのですから当然のことでしょう。

だからこそ、私たち保育者はそれぞれの子どもたちが「この子は何が好きなのかな」「この子は何が不安なのかな」「何に興味を持ったのかな」「何を願っているのかな」と一人ひとりの心の声を聴き、その心の声に気持ちを寄せていきたいと願っています。

4月の仏教保育のねらいは「合掌聞法」(手を合わせて感謝し、お話をよく聞こう)です。この目標はもちろん子どもたちへの願いでもあります。まずは私たち大人の目標にしていくことから始めましょう。園とご家族が子どもの声を、手を合わせて聴こうとする心持ちの中でこそ、子どもたちは安心して自分の歩みを進めることができるのではないのでしょうか。

副園長 村上

